



仕出し弁当 生保…100種類展開 先駆の山口県共同募金会

仕出し弁当やオーダーまくら、生命保険の契約、不動産の仲介手数料、季節用タイヤの保管料、時計の電池交換……

こんなものまで寄付つきなの？と思わせる約100種の商品を展開するのは、山口県共同募金会だ。2012年に始めたプロジェクトが、日本で唯一駄菓子

2012年に始めたプロジェクトが、日本ではじめに発表

。福岡や兵庫、山梨など全国の共同募金会にも波及した。ただ、地元業者の店頭販売やサービスが中心で、残念ながら地域限定の取り組みが多い。寄付つき商品は1980年代にアメリカのクレジットカード会社が展開した「自由の女神修復キャンペーン」が始まりとされる。

しの寄付き商品、よし試みだとは思ひが、おまつり取つかる。商品がメインになると、寄付といふ行為が付け足しならはしないか。大阪大学院の山内直人教授（公共経済学）は「現在の寄付つき商品は、価格設定によって企業が實質的に寄付を負担している可能性もあり、消費者の負担部分が明確でない」と指摘する。また、額もわざかに負担感が軽いことから、消費者が寄付している認識が薄い場合があること、「あくまで寄付の入門編と考えるべきだ」とい。実際、カンパイイヤリティに参加した名古屋市内のある居酒屋の店長は、「一部が寄付に回っている」とは言ひたくない人がほんといた」と打ち明ける。ボスターなどを見て追加注文し、人もいるものの、大部分は寄

目に見える成果必要

品やサービスを購入するだけで、社会貢献ができる。企業側は商品や企業自体のイメージアップだけでなく、売り上げ増も期待できる。

東海地方での先駆けは、冒頭で紹介したペールの「カンパイチャリティ」だ。昨年12月、今年3月、同財團が、東海地方の大賞を受賞。財團はこの春、企業の協力し、新たな寄付つき商品の開発を始めた。第1号が、リバイブのまじかる解体だ。

解体工事費の1%
イメージ向上狙う

寄付つき商品広がる裾野

る「あこがれの解体」にて取扱
を達成し、貧しい家庭の子弟の教育
サポートする団体に贈られる仕
組みだ。

同社は「まごひの解体」のア
クション名で、厚手のシートで防
音したり、再資源化にこだわり
破片や粉状の廃棄物まで徹底的
に分別したり、近隣の住民や環境
に配慮した工事が「売り」。
見積もりを頼んだ男性は寄付
つきとは知らなかつた」と言いつ
つ、「業者を決める判断基準
の一つにならなひます」。

解体工事と寄付――。意外な
組み合わせだが、理由がある。
リバライプの平沼伸基社長(35)
は「安からうる悪からう風とい

新商品とは「角体」「車」が
名古屋市中村区内の住宅街に
ある空き倉庫で、愛知県弥富市

東日本大震災以来、被災地への義援金は急増した。なのに、誰でも気軽に寄付ができるから、貧困家庭の子どもを支援できる。この試み、寄付文化を日本で本格的に根付かせるのか？新しい寄付つき商品ができたと聞き、セールス現場に立ち会ってみた。

和私事も、東日本大震災の際には、へそくりを義援金として送った。「寄付」と聞くと、電車でお年寄りの席を譲るときのように、気恥ずかしさを感じる。じつは、気恥ずかしさも感じた。ジル・ゲイツ氏のような多額の寄付はできないまでも、自分の力でやわかながら貴重なお金が誰かのためになると思うと、心が豊かになれる。「人門講義」でいふ。
寄付する商品が広く知られ、種類が増えて日常の買い物選択肢の一つになれば、「人の役に立つたい」思いを気軽にかなえられるようになる。誰かの笑顔につながることを願いつつ。

する。また、領地をわざわざで負担
感が軽いことから、消費者が寄付
している認識が薄い場合があ
る」と、「あくまで寄付の入門
編と看えてるべきだ」という。
実際、カンパイチャリティに
参加した名古屋市内のある居酒
屋の店員は「一部が寄付に回っ
ていることに気がつかない人がま
とんどいた」と打ち明ける。
ポスターなどを見て追加注文し
た人もいたものの、大部分は寄
付を意識しなかったようだ。
そもそも、日本でこれまで寄
付文化が浸透しなかったのは、
なぜだろう。寄付集めなどを支
援するNPO法人・日本ファン
ドレイジング協会の鶴尾雅隆代
表理事は「寄付の成功体験や子
どもへの寄付教育がなかった」こ
とが課題」とする。ただ、20
15年度の社会意識に関する内
閣府の世論調査では、「最近く
らい人が社会のために役に立ちた
い」と答えたと51%。「自分の寄
付が目に見える形で成果として
感じられれば、寄付は広がるは
ず」と期待する。

飲食店は生で一ドルを貰うと、ハート
水谷（同県春日井市）と組んでビール
展開した。店で客が飲んだビール
1杯につき1円が、長期入院病人
中の貧困家庭の子どもを支援す
るNPOに財団経由で寄付された
た。居酒屋など約2千店が参加
し、約4,200万円が集まつた。
今年も実施する予定だ。

この事例は昨年12月、内閣府
や國際機関など官民で初めて取
り組んだ「ドヤンペーン」「寄付用
間」で、最優秀の公私認定企画
大賞を受賞。財团はこの春、企
業と協力し、新たな寄付つき商
品の開発を始めた。第1号が、
リバйтеのまことの解体だ。

◇+Cスペシャルは記者が好きなテーマを追求します。次回は6月14日、テーマは「おいしいかき氷が食べたい！」です。